REFINITIV. リフィニティブ

担当＝DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのファイナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい 投信 なるほどリッパー

リーマン級のコロナショック

３カ月で16兆円が吹き飛んだ

2020年３月は、新型コロナウイルスの感染拡大で世界中の金融市場が大きく荒れました。国内で販売されているオープン投資信託（ＭＲＦ＝マネー・リザーブ・ファンドを除く）の純資産総額は、リッパーの推計で、３月末時点で約93.7兆円＝グラフ。９カ月ぶりに100兆円割れです。

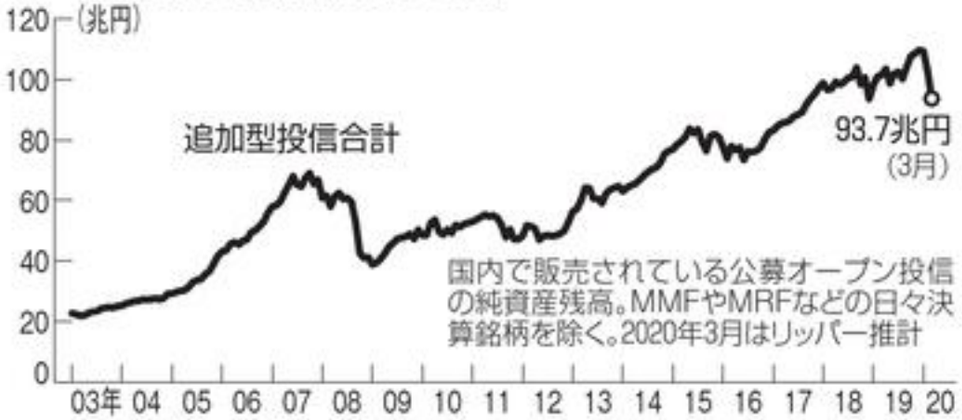
今年１～３月で約16兆円の目減りです。３月だけでみても、オープン投信全体の純資産総額は約９兆円も減少。統計をさかのぼれる03年１月以来、月間の縮小幅としては２番目の大きさ。最も大きく減ったのは08年10月の約10兆円で、その前月は米金融大手リーマン・ブラザーズが経営破綻しました。今回のコロナショックは、それに匹敵するほどの資産減少です。

投信の純資産総額は、運用する株式や債券などの時価評価額に、利息や配当金などを加え、運用費用などを差し引いた金額です。資金の出入りと運用資産の時価によって変動します。リッパーの推計では、３月まで投信市場全体への資金流入は３カ月連続の超過。資産流入でカバーできないほど、運用による時価の下落が大きかったのです。

３月の純資産総額を大きく減らした投資対象別分類は日本株。続いてリート投信が、日本、北米、グローバルの順で並びます。日本株の投信とリート投信の合計で３兆円の目減りで、オープン投信全体の縮小金額の３分の１に相当します。といっても、これらはもともと、純資産総額に占める割合が大きな分類です。

そこで見方を変えて、純資産総額の減少率について、投資対象分類別に比較してみました＝表。３月に純資産総額の減少率が大きかったのは、新興国の株式や債券で運用する投資対象分類でした。３月、新興国の投信は、資金の流出超過が鮮明で、騰落率でも他の投資対象分類より下落率が大きくなっています。先の見通しが立たない不安を抱き、比較的リスクの高い投資を敬遠したようです。

オープン投信の純資産残高の推移



■３月に純資産総額を大きく減らした投資対象分類

リッパーによる分類	前月からの減少率
株式型　インド	-33.8%
株式型　エマージングマーケット　欧州	-30.1%
株式型　フロンティアマーケット	-28.4%
株式型　エマージング　グローバル　中小型株	-28.4%
債券型　エマージング　グローバル　社債	-28.1%
株式型　業種別　不動産業　グローバル	-26.3%
債券型　エマージング　グローバル　HC	-22.6%
株式型　エマージングマーケット　グローバル	-21.7%
株式型　業種別　不動産業　北米	-20.8%
株式型　欧州　インカム	-20.5%

国内で販売されているオープン投信について、リッパーの投資対象別に純資産総額を集計し、前月に比べて資産縮小率が大きな分類を掲載。HCはハードカレンシーの略で米ドルなど主要先進国通貨建てを示す。３月末時点におけるリッパー推計

◎ 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。